

坂総合病院医学生だより

# 坂坂

〈発行〉  
坂総合病院  
医学生と共に歩む委員会

連絡先・塩釜市錦町16-5  
☎ 022-367-9007  
2015年 6月 1日  
No. 68号



坂総合病院HP「医学生のひろば」より過去の坂坂がご覧になれます。

# 坂総合病院増築工事完成！



坂総合病院 副院長  
医師 小幡 篤

坂総合病院の中庭に増築していた建物が完成いたしました。これは国の地域医療再生事業・地域医療施設復興事業に採択され、増改築による地域医療整備プロジェクトとして建設したものです。①救急センター・②医療従事者教育ステーション・③地域医療連携ステーション・④災害地域医療強化を目的としたプロジェクトとなっています。救急センターは今回の柱ですが、入院病床満床による紹介・救急搬入のお断りを減らし、救急受け入れ体制強化のため、救急処置室の拡充と救急入院専用病棟の新設を実施しました。救急センターは従来の検査施設・病棟との連携を重視して、病院一階の旧リハビリ室を改修して従来の救急処置室に隣接して整備しました。これにより12床の時間外の救急入院専用病棟ができ、ERと一体となった運用ができるようになりました。

救急病棟新設によりリハビリテーション部門は増築部分に移設拡充し心疾患リハビリテーション室も新設しています。救急関連では血管造影・心臓カテーテル室を2室に増設・移設し検査治療中の救急対応もより迅速に行える体制に強化しています。教育ステーションとしては地域での医療・介護領域の研修・講演などに利用できるオ

ープンスペースとみちのく総合診療医学センターの部屋を新設しました。

地域医療連携ステーションは、紹介を受ける地域医療連携室の前方連携機能と後方連携機能である退院調整室やMSWの相談室が別々に運営されていたのを統合し、より効率的に地域連携を強化するために組織改変を行うこととしました。

災害医療に対しては東日本大震災後の対応で重要な役割を果たした1階の広いリハビリテーション部門を増築した建物の一階に移動し、そのあとを救急ステーションとして整備することで、前回以上の収容対応能力を持つ施設となり、備蓄施設も整備しました。

今回の増改築により地域医療支援病院・災害拠点病院としての機能をさらに充実させ、臨床研修指定病院としてもより充実した研修が実施できるよう展開していきます。



# 坂総合病院での研修を1年終えてみて

医学生の皆さん、こんにちは。坂総合病院 初期研修医 2年目の古谷慎太郎です。私は秋田大学を卒業し、坂病院での研修を開始しました。

入職した時は薬の名前、カルテの使い方、病院のシステム、何も分からない状態からのスタートでした。一番ショックだったのは最初に下剤を処方した時でした。たかが下剤、でも実際に自分が処方するとなると「この患者に、このタイミングで、しかもこの薬剤でいいのか？」と冷や汗をかきながら悩んでいたことを今でも覚えています。そんな私も今や消化器科 3ヶ月、呼吸器科 3ヶ月、循環器科 3ヶ月、精神科 1ヶ月、神経内科 3ヶ月のローテーションを終えました。各科先輩やコメディカルの方から御指導頂き、今では common disease に関しては初期対応から治療まで最低限はできるようになったのではないかと思います。



坂総合病院 研修医  
古谷 慎太郎



それではどんな研修なのか。一言で表すならば「自立した研修」です。うちの研修はとにかく独り立ちが早い。当直、外来、往診など全てにおいて他の病院では見習いの時期に独り立ちしていきます。勿論、事前の練習やコンサルト体制は整っているので何とかやれるものです。自分でやらなければいけない分、本気で考え、調べ、足りなければコンサルトする。それが非常に勉強になり経験値となります。私のように指導医について回ると考えるのを放棄するタイプの人間には非常に合った研修でした。

最期になりますが、皆さんにメッセージです。よく先輩から「学生の時の知識なんて使えない」と聞きますか？あれは嘘です。確かに医学生の時にどんなに勉強しても現場では役立たずからのスタートです。でもある程度流れを理解した後は学生の時に溜めた知識が非常に役に立ちます。勉強も頑張ってください。そして何より働くと自分の時間は少なくなります。学生である今のうちに、旅行でもスポーツでも悔いのないように打ち込んで自分の世界を拓けてみてください。皆さんと一緒に医療ができる日を心待ちにしています。

# 医学生の皆さんへ

坂総合病院 研修医  
京 吉彦



こんにちは。坂総合病院研修医1年目の京 吉彦といます。秋田県出身秋田大学卒です。自分の残念な大学時代と、そこからの意識変容について、少し書かせていただきます。

正直を申し上げますと、皆さんに胸を晴れるような大学時代は送っていません。真面目な高校生でしたし、「良いお医者さんになろう！」と高い目標を持って入学したはずだったのに、授業はサボり、勉強は試験前に詰め込むだけになってしまいました。なぜモチベーションが低下してしまったのか考えると、医学部の勉強がノルマ達成型だからだったのかな、と思います。進級試験も国家試験も合格さえすればいいので、満点とっても合格点ギリギリでも「見かけ上」結果は同じです。そうなる「このぐらいでいいや」と妥協してしまうのが人間の性。ただでさえ膨大な知識を求められる



医学部ですし、受験を勝ち抜いてきた効率的な医学生ですから。きっと僕と同じように「こんなはずじゃなかったのにな。」と、モヤモヤと葛藤しながらも、実際はダラけた大学生活を送っている人、沢山いると思うのですがどうでしょう。

しかし、そのまま医者になる訳にはいきません。合格点ギリギリ程度の努力で妥協するような医者には誰だって診られたくないですし、これからは「見かけ上」でも明確に差がついていくわけです。このままでは間違いなく「こんな医者にはなりたくないな」と考えていたそのものになってしまう、反面教師にされる側になってしまうと気づき、しっかりと学ぶことができそうな病院で研修しようと思いました。

私から医学生の皆さんに伝えたいのは「やる気が出たならばその時から頑張れ」というごくごく当たり前のことです。私の場合は研修病院を決めるタイミングでやる気が出たので、大好きなふるさと秋田ではなく坂病院で研修することにしました。私のように残念な大学生活を送っている人も、どこかのタイミングでやらなきゃ！と思うはずですが、早ければ早いほうがいいですが、遅すぎるということはないと思います。大学入学前に思い描いていた理想と現実のギャップにおおいに苦しんでください。そこを突破してやる気が出たらその時からいいので頑張りましょう。もし叶うならば坂病院と一緒に。とりあえずはノルマ達成型の勉強を頑張ってくださいね。

# 医学生新歓フィールドワーク

5月の連休を利用して宮城と福島で医学生の新歓地視察を行いましたので報告します。

5月2日(土)の福島民医連主催「浪江町視察」には宮城から3名が参加しました。はじめに、いいの診療所の所長から震災時と現在の福島の状況についての話をお聞きしました。

その後、浪江町の避難指示解除準備区域を視察しました。この区域は自由に行き来することができず、入るには許可が必要になります。また、入ることができるのは日中のみで夜は入ることができません。震災当時のまま誰も住んでいない街並みや卒業式の看板がかけられたままの中学校の体育館は時間が止まっているようでした。その中学校の黒板にはこの場所を訪れた全国各地の方々からのメッセージが書かれており、参加した医学生もメッセージを書きました。

この区域は2017年3月には避難指示が解除され、居住できるようになりますが実際に現地を視察し、案内をしていただいた方の話を聞くと、はたして住人は戻ってくるのか、街は復興するのか疑問に感じました。



5月6日(祝)は宮城民医連主催で「石巻フィールドワーク」を行いました。今回は宮城から4名が参加し、青森・岩手からの参加もありました。

日和山・石巻日々新聞の記念館「石巻ニューゼ」・旧女川町立病院・開成仮設住宅などを視察し、仮設住宅では住民との懇談を設けました。

講師の方・仮設住宅の方々共通して仰っていたのは、「目に見えない復興」です。街はがれきの撤去が進み、「目に見える復興」は進んでいますが、これからの復興を担う30代の自殺者が増えていることや不登校の増加など世代を超えた影響が数々出ており、「目に見えない復興」という部分に関してはまだまだ復興の道なにかばのように思いました。

現地に足を運んだからこそ知ることができた「被災地・福島と石巻の今」を、これから医療者としてどのようなことができるかを考えるきっかけになればいいと思います。